



Local Trade Sync Copier

User Manual v1.07 - 日本語版

A → B / 同一 PC ・ VPS 上の MetaTrader 5 口座間で取引状態をローカル同期するユーティリティ

Manual edition: 1.1

Product version: 1.07

2026-08-15

1. このマニュアルの目的と重要事項

本書は、Local Trade Sync Copier v1.07 を購入したユーザーが、設定項目の意味を理解し、A 口座（Publisher / Source）から B 口座（Receiver / Destination）へ安全に同期を開始できることを目的とした取扱説明書です。設定名・初期値・並び順は v1.07 ソースコードの input 定義から照合しています。

最重要 - 動作条件

A 端末と B 端末は同じ PC または同じ VPS 上で動作させてください。A-B 間のデータ交換は MT5 の FILE_COMMON を使うローカル方式です。重要なのは A/B が同じ TERMINAL_COMMONDATA_PATH\Files を共有していることです。別 PC/別 VPS 間をインターネット越しに直接同期する製品ではありません。なお、MT5 自体がブローカーへ接続して取引するためのインターネット接続は別途必要です。

- B 口座（Receiver）は Hedging 方式が必須です。EA は B 側起動時に Hedging かを確認し、Netting 口座では開始しません。
- 1 口座につき 1 つの MT5 ターミナルを使用してください。複数 B 口座へ同期する場合も、各 B 口座を別 MT5 ターミナルで起動します。
- 1 つの MT5 ターミナルでは EA を 1 チャートに 1 つだけ入れれば、SourceSymbols で指定した複数シンボルを処理できます。
- A 側では SourceSymbols に含まれるすべてのオープンポジションを対象にします。手動注文か別 EA の注文か、Magic Number が何かは A 側の抽出条件ではありません。
- B 側では本 EA の Magic Number と内部タグで自分が作成したポジション/注文を識別し、通常は B 口座の無関係な取引を管理対象にしません。
- 本製品は売買シグナルや売買戦略を提供する EA ではありません。ブローカー間の価格・スプレッド・Stops Level・約定条件により、A と B の結果が完全一致することは保証されません。
- 初回運用はデモ口座で確認し、設定変更はオープン中の同期取引がない状態で行うことを推奨します。

本書の構成

- 用語集 → クイックスタート → 実動作例 → 1 対多構成 → 全 input パラメータ（MT5 表示順） → ロット計算 → 価格差制御 → SL/TP 安全動作 → 再起動/再エントリー → 待機注文 → Strategy Tester → トラブルシューティング → 最終チェック

2. 用語集

用語	意味
A 口座 / Publisher / Source	同期元。SourceSymbols に含まれる A 口座の取引状態を FILE_COMMON へ定期的書き出す側。
B 口座 / Receiver / Destination	同期先。A のスナップショットを読み、対応する注文・ポジション・SL/TP・決済を B 口座へ反映する側。B は Hedging 必須。
ChannelName	どの Publisher と Receiver を同じグループとして扱うかを定めるローカル識別名。A と B で一致させる。
Symbol mapping	A のシンボル名と B のシンボル名の対応付け。SourceSymbols と DestinationSymbols を同じ順番で並べる。
Magic Number	B 側で本 EA が作成した取引を識別する番号。通常は ChannelName から自動生成。
Hedging account	同一シンボルに複数ポジションを個別チケットで保持できる口座方式。本 EA の B 側は分割注文・部分決済・チケット単位管理のため必須。
FILE_COMMON	同じコンピューター上の複数 MT5 ターミナルから共有できる共通 Files 領域。本 EA の A-B 通信に利用。
Contract Size	1 lot が表す契約数量。A と B で異なる場合、EnableContractSizeCorrection=true ならロット倍率を補正する。
Stops Level	ブローカーが要求する最小距離。本 EA は B 側シンボルの Stops Level を取得し、成行ポジションの SL/TP や待機注文の価格・保護価格が許容されるかを用途ごとに判定する。
Freeze Level	現在価格に近い既存待機注文の変更/削除が制限される領域。v1.07 では待機注文変更の判定で扱う。
Relative Distance	A の Entry から SL/TP までの距離を、B の Entry へ移して再現する方式。A/B の約定価格が違ってもしリスク距離を近づける。
Adverse distance	A と比べて B が不利な方向へどこまで価格差を許容するかという絶対価格差。points/pips ではなく価格値で入力。
Mapping / Map	A の 1 取引と B 側で作成した 1 つ以上のポジション/注文の対応関係。B 口座ごとにローカル保存され、通常再起動後も再利用される。
EA / Expert Advisor	MT5 上でチャートにセットして動作するプログラム。本製品は売買判断やシグナルを生成する EA ではなく、取引同期を行うユーティリティとして動作する。
Algo Trading	MT5 で EA による取引操作を許可する機能。Receiver で EnableTrading=true として実際に発注・変更・決済する場合は有効にする。
Binding	Receiver が最初に接続した A 口座ログインと Effective Magic Number を ChannelName 単位で記録し、別の A 口座への意図しない接続を防ぐ保護情報。

3. クイックスタート - 最短で A→B 同期を開始する

開始前チェック

A と B を同じ PC/VPS で起動し、B 口座が Hedging であることを確認してください。B 側の MT5 では Algo Trading を有効にします。A/B の Experts ログに表示される FILE_COMMON path が一致していることも確認してください。

1. A 口座の MT5 で任意のチャートを 1 つ開き、本 EA をセットします。OperatingMode = COPIER_ACCOUNT_A_PUBLISHER にします。
2. A 側の ChannelName を決めます（例: Main）。SourceSymbols へ同期したい A 側シンボルをカンマ区切りで入力します。
3. B 口座の別 MT5 ターミナルで任意のチャートを 1 つ開き、同じ EA をセットします。OperatingMode = COPIER_ACCOUNT_B_RECEIVER にします。
4. B 側 ChannelName を A と同じ値にします。SourceSymbols は A と同じ並び、DestinationSymbols は B 側の実際のシンボル名を同じ順で入力します。
5. B 側 EnableTrading = true にします。最初は LotSizingMode = LOT_FIXED_MULTIPLIER、LotMultiplier = 1.0 など単純な設定でデモ確認することを推奨します。
6. A 側で新規ポジションを 1 つ開き、B 側へコピーされることを確認します。その後 A 側で SL/TP 変更、部分決済、全決済を順番に確認してください。

設定例

A: SourceSymbols = XAUUSDm,USDJPY
 B: SourceSymbols = XAUUSDm,USDJPY
 B: DestinationSymbols = XAUUSD,USDJPY+
 A/B: ChannelName = Main

SourceSymbols の意味

A 側は指定シンボルのすべてのポジションを公開します。特定の Magic Number だけを選ぶフィルターはありません。同期対象を分けたい場合は SourceSymbols や口座自体を分けてください。

4. 設定画面の見方

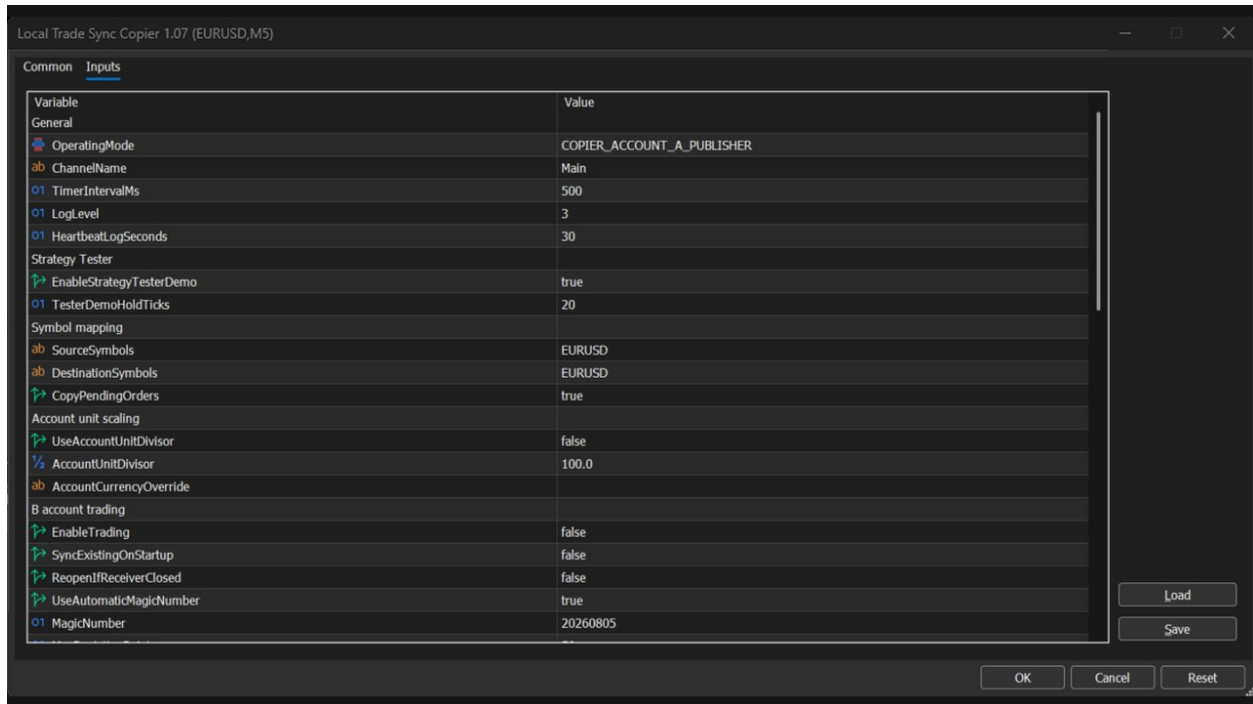


図 1 Publisher 設定例 - OperatingMode = COPIER_ACCOUNT_A_PUBLISHER

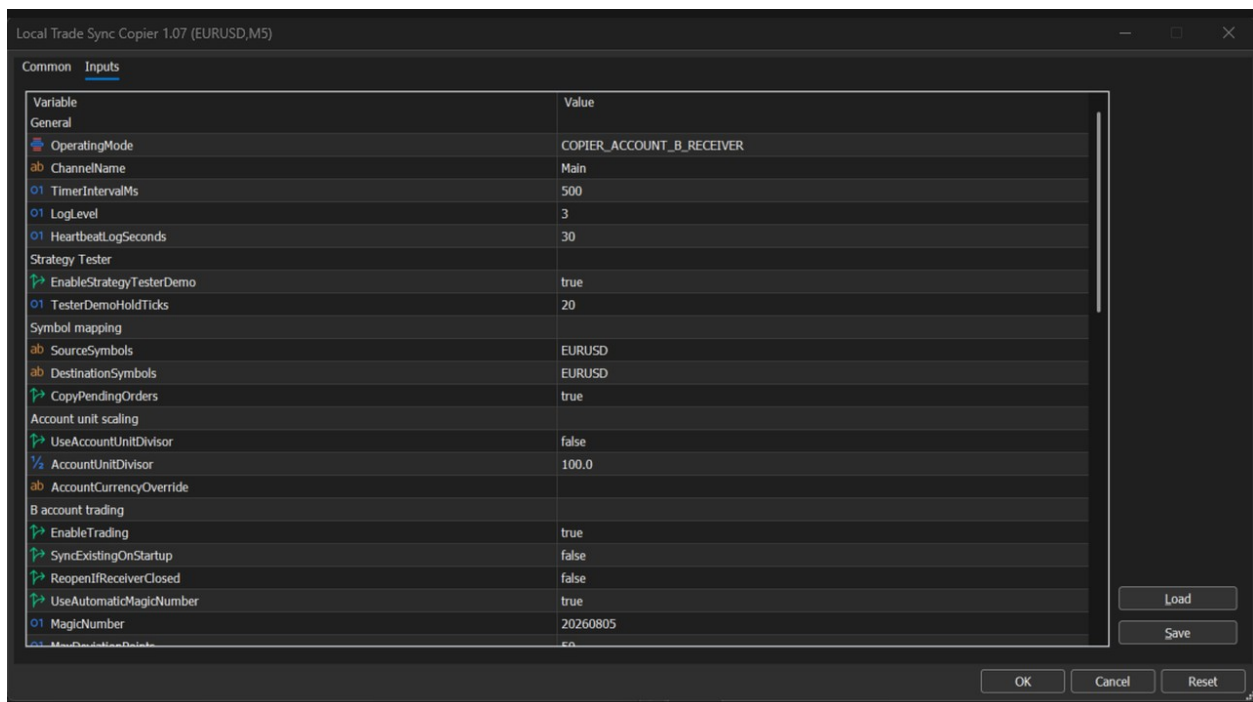


図 2 Receiver 設定例 - OperatingMode = COPIER_ACCOUNT_B_RECEIVER / EnableTrading = true

5. 実動作例

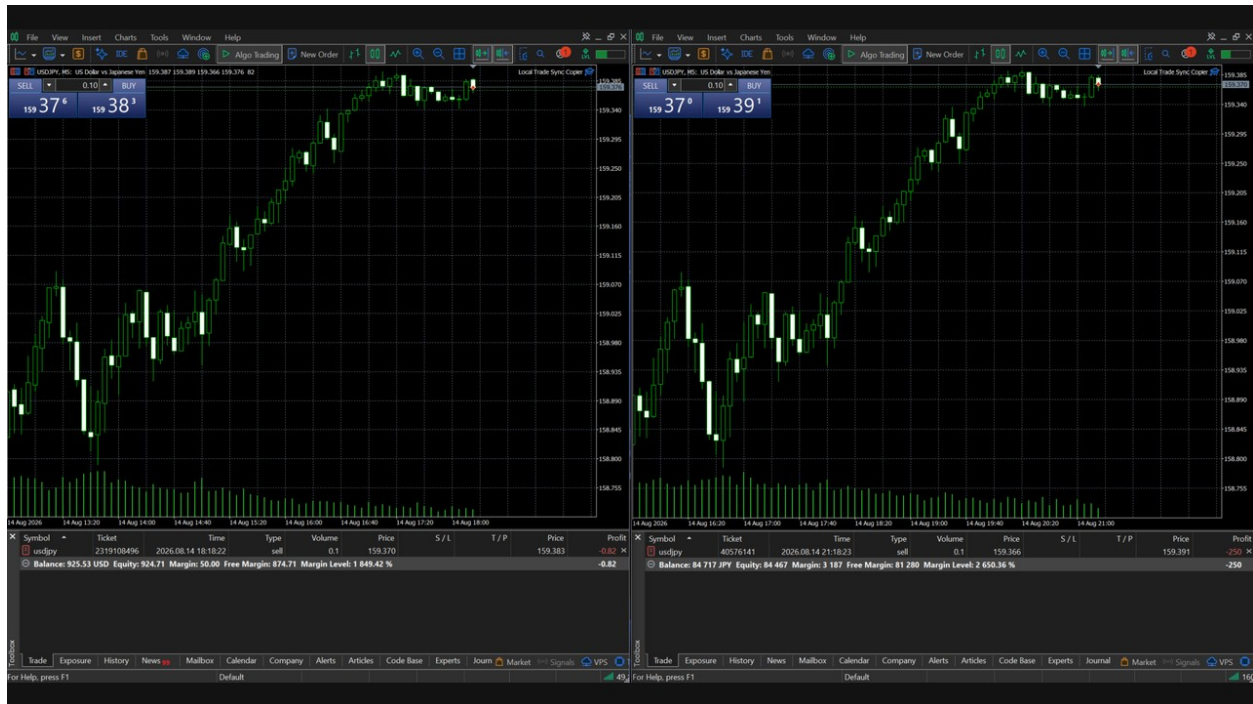


図 3 USDJPY: A の SELL 0.1 が B へ同期。ブローカー差により約定価格は完全一致しない。

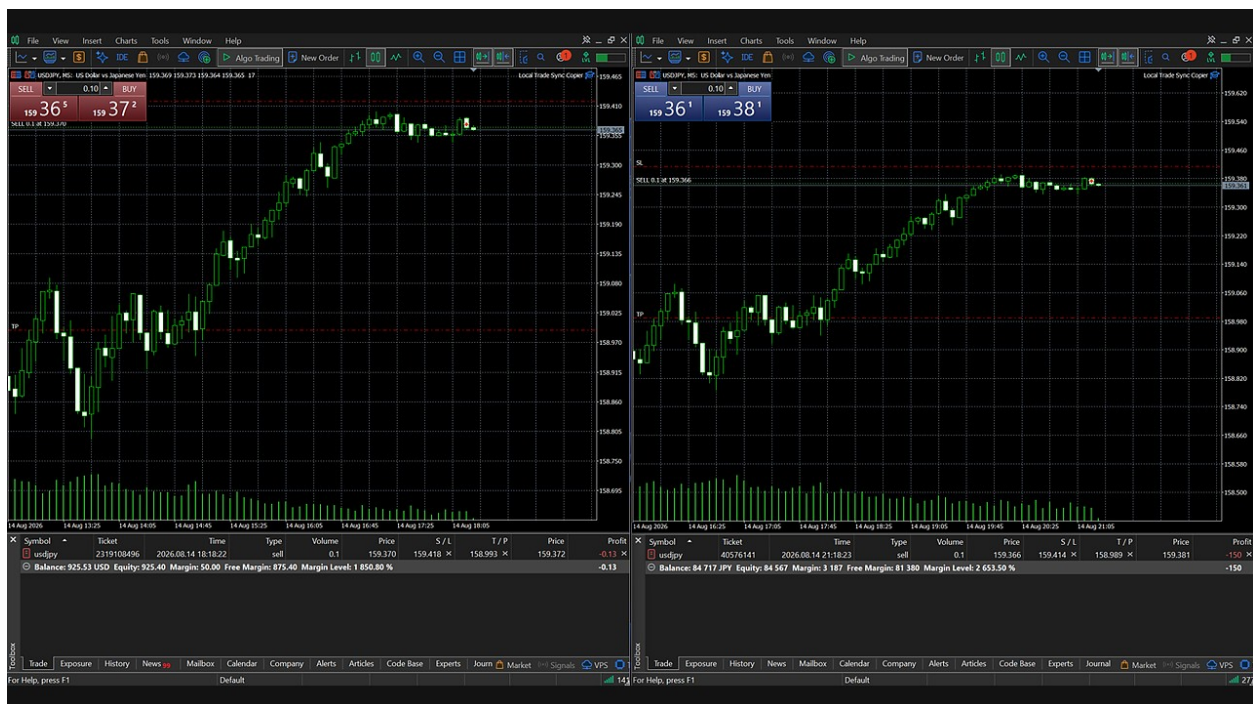


図 4 SL/TP 同期例。RELATIVE_DISTANCE では A と B の SL/TP 価格そのものが異なる場合がある。

6. 1つの Publisher から複数 Receiver へ

同じ PC/VPS 内で、1つの A Publisher を複数の B Receiver が読む構成に対応します。A が共有する State/Account ファイルは ChannelName 単位、B の Map/Binding は B 口座ログイン単位で分離されます。したがって各 B でロット設定や DestinationSymbols を独立させられます。

ACCOUNT A - PUBLISHER / SOURCE ChannelName = Main		
↓	↓	↓
ACCOUNT B1 RECEIVER 独立 Lot / Symbol 設定	ACCOUNT B2 RECEIVER 独立 Lot / Symbol 設定	ACCOUNT B3 RECEIVER 独立 Lot / Symbol 設定

構成ルール

同じ ChannelName に複数 Publisher を同時に置かないでください。各 B 口座では「同じ B 口座 + 同じ ChannelName」の Receiver インスタンスを重複起動しないでください。1つの A に対して複数 B を置く場合は、各 B を別 MT5 ターミナル/別口座で動かします。

チャンネル保護

B は最初に接続した A 口座ログインと Effective Magic Number を Binding として保存します。同じ ChannelName のまま A 口座ログインが変わると同期を一時停止し、「新しい A 口座には新しい ChannelName を使う」よう促します。運用途中で ChannelName や Magic Number を変更しないでください。

7. 全 input パラメータ - MT5 表示順

この章は v1.07 ソースコードの input 定義を上から順に並べています。表の初期値はソースと一致するように自動照合しています。Unified EA のため、Publisher 画面にも B 専用設定が表示されますが、対象欄が[B]の項目は主に Receiver でのみ意味を持ちます。

7.1 General

Parameter	初期値	用途・注意
OperatingMode	COPIER_ACCOUNT_A_PUBLISHER	[A/B] EA の役割を選択。A 側は COPIER_ACCOUNT_A_PUBLISHER、B 側は COPIER_ACCOUNT_B_RECEIVER。
ChannelName	Main	[A/B] A と B を結び付けるローカルチャンネル名。同じ組み合わせでは同じ値を使用する。英数字・_・- 以外は内部的に _ に置換され、空欄は内部的に Default として扱われる。1 つの ChannelName では Publisher を 1 つにする。
TimerIntervalMs	500	[A/B] 同期処理のタイマー間隔 (ms)。最小 50ms。小さくすると反応は速くなる一方、処理回数が増える。
LogLevel	3	[A/B] Experts/Journal へのログ量。0=なし、1=警告/エラー、2=通常、3=デバッグ。
HeartbeatLogSeconds	30	[A/B] LogLevel=3 のときの稼働確認ログ間隔 (秒)。0 でハートビートログを無効化。負数不可。

7.2 Strategy Tester

Parameter	初期値	用途・注意
EnableStrategyTesterDemo	true	[Tester] Strategy Tester 内で Market デモ用の単体デモ動作を有効化。true では通常の 2 端末コピー処理ではなく、最小ロットのデモポジションを 1 回開閉する。
TesterDemoHoldTicks	20	[Tester] デモポジションを開いた後、決済まで待つティック数。1 以上。

7.3 Symbol mapping

Parameter	初期値	用途・注意
SourceSymbols	EURUSD	[A/B] A 側で監視するシンボルをカンマ区切りで指定。例: EURUSD,XAUUSD,USDJPY。A 側はこのリストに含まれる全ポジションを取得する。重複指定不可。
DestinationSymbols	EURUSD	[B] SourceSymbols と同じ順序で B 側シンボルを指定。B では項目数を SourceSymbols と一致させる。例: A=XAUUSDM,USDJPY / B=XAUUSD,USDJPY+。Publisher モードでは実質使用しない。
CopyPendingOrders	true	[A/B] true で待機注文 (Limit/Stop/Stop Limit) も同期対象にする。A/B で同じ設定を推奨。false では待機注文を管理しない。

7.4 Account unit scaling

Parameter	初期値	用途・注意
UseAccountUnitDivisor	false	[A/B] 口座残高を AccountUnitDivisor で割って正規化する。主に残高比率ロット計算用。固定倍率モードでは通常不要。
AccountUnitDivisor	100.0	[A/B] 残高正規化の除数。 UseAccountUnitDivisor=true 時に使用。0 以下は無効。例: 表示単位を 100 分の 1 へ正規化するなら 100。
AccountCurrencyOverride		[A/B] 残高比率の通貨判定に使う口座通貨コードを強制指定する上級者向け設定。空欄なら MT5 の ACCOUNT_CURRENCY を使用。残高そのものを換算する設定ではない。誤った通貨コードを指定すると換算判定が誤るため、意図が明確な場合のみ使用する。

7.5 B account trading

Parameter	初期値	用途・注意
EnableTrading	false	[B] B 側で実際の発注・変更・決済を許可する。true で実取引、false ではブローカーへの取引操作を実行せずログで予定動作を確認するドライラン。Publisher では取引実行に使用しない。
SyncExistingOnStartup	false	[B] B が初めて認識した時点ですでに A に存在し、まだマッピングされていないポジション/待機注文を同期するか。false ならその A 取引が消えるまで無視。既存の保存マップがある通常再起動は別で、マップを読み込んで継続する。
ReopenIfReceiverClosed	false	[B] B 側で手動決済、SL/TP、ストップアウト等によりマッピング済みポジションが独立して減少/消滅したときに再建するか。false (推奨) では同じ A ポジションの失われた数量を再エントリーしない。true は A 由来の絶対目標数量へ復元する旧挙動。
UseAutomaticMagicNumber	true	[B] true で ChannelName から安定した Magic Number を自動生成。通常は true 推奨。
MagicNumber	20260805	[B] UseAutomaticMagicNumber=false 時に使用する手動 Magic Number。0 以下は不可。運用途中で変更すると保存済みチャンネルとの不一致が起きるため変更しない。
MaxDeviationPoints	50	[B] 成行発注/決済などで許容する最大価格偏差 (ポイント)。pips ではなく MT5 の point 単位。0 以上。
RetryIntervalMs	1000	[B] 発注・変更・決済などが完了しなかった場合の同一ソース取引に対する再試行間隔 (ms)。0 で待ち時間なし。負数不可。
MaxOperationsPerCycle	10	[B] 1 回のタイマーサイクルで実行する取引操作数の上限。0 で上限なし。負数不可。大量同期時の負荷・連続発注を抑えるための設定。

7.6 Lot sizing (1/2)

Parameter	初期値	用途・注意
LotSizingMode	LOT_FIXED_MULTIPLIER	[B] ロット計算方式。 LOT_FIXED_MULTIPLIER=固定倍率、 LOT_BALANCE_RATIO=A/B 残高比率を加味。
LotMultiplier	1.0	[B] ロット計算の基本倍率。必ず 0 より大きい値。最終倍率には残高比率や契約サイズ補正が追加される場合がある。
EnableContractSizeCorrection	true	[B] true で A/B シンボルの Contract Size 差を補正。倍率に「A の Contract Size ÷ B の Contract Size」を掛ける。異なる口座仕様/銘柄仕様では通常 true 推奨。
UseSourceTieredBalance	false	[B] LOT_BALANCE_RATIO 時、A の正規化残高を SourceTierStep 単位で切り下げ、SourceMinimumBalance を下限として使用する。
SourceTierStep	100000.0	[B] A 残高の切り下げ単位。例: 100000 なら 1,260,000→1,200,000。 LOT_BALANCE_RATIO かつ UseSourceTieredBalance=true 時に使用。
SourceMinimumBalance	100000.0	[B] SourceTieredBalance 適用後の A 残高の下限。値は正規化後の口座通貨単位で扱う。 例: 100000 なら、正規化後の A 残高が 100000 未満でも 100000 として計算。負数不可。
EnableBalanceCurrencyConversion	false	[B] LOT_BALANCE_RATIO で A/B の通貨コードが異なる場合、A 残高を B 側通貨へ換算することを許可。false で通貨が異なると残高比率計算は成立せず、そのソースのマッピングを開始できない。
ConversionSymbol	USDJPY	[B] 自動換算に使うシンボル。通貨換算が必要で UseManualConversionRate=false の場合、Bid と Ask の中間値（利用可能な場合）からレートを取得。例: USDJPY。
ConversionOperation	CONVERSION_MULTIPLY	[B] A 残高を B 通貨へ換算する演算。 CONVERSION_MULTIPLY=掛ける、 CONVERSION_DIVIDE=割る。通貨ペアの向きに合わせて選ぶ。

7.6 Lot sizing (2/2)

Parameter	初期値	用途・注意
UseManualConversionRate	false	[B] Balance Ratio で通貨換算が必要な場合、true で ConversionSymbol を使わず ManualConversionRate を使用。
ManualConversionRate	0.0	[B] 手動の換算レート。 LOT_BALANCE_RATIO で通貨換算を有効にし、UseManualConversionRate または FallbackToManualConversionRate を使う場合は 0 より大きい値が必要。
FallbackToManualConversionRate	false	[B] 通貨換算が必要なとき、自動換算レートを取得できない場合に ManualConversionRate へフォールバックする。
MaxCopiedVolumePerSource	0.0	[B] 1 つの A ポジション/待機注文から派生する B 側目標数量の上限。0 で上限なし。
MaxVolumePerOrder	0.0	[B] B で 1 回に作成する 1 注文/1 ポジションの最大ロット。0 で B ブローカーの最大ロットを使用。目標数量が大きければ複数チャックへ分割。B が Hedging 必須である理由の 1 つ。
TargetVolumeRounding	TARGET_VOLUME_ROUND_DOWN	[B] B のロットステップへ丸める方法。 TARGET_VOLUME_ROUND_DOWN=切り下げ、TARGET_VOLUME_ROUND_NEAREST=最も近いステップへ丸め。
BelowMinimumLotAction	BELOW_MINIMUM_SKIP	[B] 新規 B ポジションがまだ無い状態で計算ロットが B の最小ロット未満の場合。 BELOW_MINIMUM_SKIP=発注しない、BELOW_MINIMUM_RAISE_TO_MINIMUM=最小ロットへ引き上げ。
SmallRemainderAction	SMALL_REMAINDER_KEEP_MINIMUM	[B] 既存 B ポジションの縮小でブローカー最小ロット未満の残りが発生する場合の扱い。 KEEP_MINIMUM=最小ロットを残す、CLOSE=全決済側へ寄せる。目標ロット自体が最小未満になった既存ポジションにも影響。

7.7 Price difference control

Parameter	初期値	用途・注意
EnableEntryPriceControl	false	[B] 通常の新規コピー発注で、B 価格が A のエントリー価格より不利すぎる場合に発注を保留する。条件を満たすまで RetryIntervalMs に従い再試行。
EnableSyncPriceControl	false	[B] SyncExistingOnStartup=true で既存 A 取引を初回同期するときの価格差制御。通常新規エントリーとは別の許容距離を使える。
EnableClosePriceControl	false	[B] A 側決済に追従して B を閉じる際、B 価格が A 側の最新価格より不利すぎる場合に B 決済を保留する。保留中は B の市場エクスポージャーが継続する点に注意。保護水準通過による安全決済はこのフィルターをバイパスする。
EntryAdverseDistances	0.0010	[B] 通常新規発注の不利方向許容距離（絶対価格差）。1 値なら全 SourceSymbols 共通、複数なら SourceSymbols と同数をカンマ区切り。point/pip 指定ではなく価格値。
SyncAdverseDistances	0.0010	[B] 既存取引の初回同期に使う不利方向許容距離。書式は EntryAdverseDistances と同じ。
CloseAdverseDistances	0.0010	[B] 決済同期に使う不利方向許容距離。書式は EntryAdverseDistances と同じ。

7.8 SL and TP

Parameter	初期値	用途・注意
CopyStopLoss	true	[B] true で A の SL 追加・変更・削除を B で管理。false では EA は B の SL を変更しない。
CopyTakeProfit	true	[B] true で A の TP 追加・変更・削除を B で管理。false では EA は B の TP を変更しない。
ProtectionPriceMode	PROTECTION_RELATIVE_DISTANCE	[B] SL/TP 価格の作り方。DIRECT_PRICE=A の数値をそのまま使用。 RELATIVE_DISTANCE=A の Entry→SL/TP 距離を B の実約定/注文価格へ移して再現。異なるブローカー間では RELATIVE_DISTANCE が初期値。

7.9 Data freshness

Parameter	初期値	用途・注意
EnableFreshnessCheck	true	[B] A の Account スナップショットが古い場合に B の同期を一時停止する安全機能。
MaxDataAgeSeconds	5	[B] 許容する A データの最大経過秒数。0 なら実質的に経過時間制限なし。負数不可。
StaleWarningRepeatSeconds	30	[B] データ遅延などの警告ログを繰り返す最短間隔（秒）。0 では繰り返し抑制なし。負数不可。

8. ロット計算の考え方

8.1 Fixed Multiplier

基本式（契約サイズ補正を含む場合）：

$$B \text{ raw target} = A \text{ volume} \times \text{LotMultiplier} \times (A \text{ Contract Size} \div B \text{ Contract Size})$$

EnableContractSizeCorrection=false なら最後の契約サイズ比は掛けません。計算後、B の volume step へ TargetVolumeRounding で丸め、必要に応じて MaxCopiedVolumePerSource と MaxVolumePerOrder を適用します。

8.2 Balance Ratio

$$\begin{aligned} \text{Frozen multiplier} &= \text{LotMultiplier} \\ &\times (B \text{ normalized balance} \div A \text{ normalized/tiered balance converted to B currency}) \\ &\times (A \text{ Contract Size} \div B \text{ Contract Size}) \quad [\text{if enabled}] \end{aligned}$$

重要: この倍率は A の各ソース取引を初めてマッピングした時点で計算され、その取引のマッピングに「frozen multiplier」として保持されます。同じ A ポジションが開いている間に残高が変化しても、そのソース取引の倍率を毎サイクル再計算する方式ではありません。A 側の数量変更は保存された倍率に対する差分として同期されます。

8.3 通貨換算例

- A=USD、B=JPY、ConversionSymbol=USDJPY の場合: 通常は CONVERSION_MULTIPLY（USD 残高×USDJPY ≒ JPY）。
- A=JPY、B=USD、ConversionSymbol=USDJPY の場合: 通常は CONVERSION_DIVIDE（JPY 残高÷USDJPY ≒ USD）。
- 通貨ペアの向きやブローカーのシンボル定義が異なる場合は、実際のレート方向を確認してから選択してください。
- AccountUnitDivisor は A/B 各端末で独立して設定され、その端末の Balance を除数で割って正規化します。

最小ロットと丸め

TargetVolumeRounding、BelowMinimumLotAction、SmallRemainderAction の組み合わせにより、計算上のロットと実際の B ロットが異なる場合があります。販売/運用前に B ブローカーの SYMBOL_VOLUME_MIN / STEP / MAX をデモで確認してください。

9. 価格差制御 (Adverse Price Control)

価格差制御は初期値ではすべて OFF です。ON にした場合、B にとって不利な価格差だけをブロックし、有利な価格は許可する設計です。距離値は「価格そのものの差」であり、points/pips ではありません。

場面	BUY 条件	SELL 条件	該当設定
通常エントリー	$B \text{ Ask} \leq A \text{ Entry} + \text{distance}$	$B \text{ Bid} \geq A \text{ Entry} - \text{distance}$	EntryAdverseDistances
既存取引の初回同期	上と同じ考え方	上と同じ考え方	SyncAdverseDistances
決済	$B \text{ Bid} \geq A \text{ Bid} - \text{distance}$	$B \text{ Ask} \leq A \text{ Ask} + \text{distance}$	CloseAdverseDistances

距離リストの書式

SourceSymbols = EURUSD,XAUUSD,USDJPY
EntryAdverseDistances = 0.0005,0.50,0.010

1 つの値だけを入力すれば全 SourceSymbols で共通使用します。複数値を入れる場合は SourceSymbols と同じ個数が必要です。負数は不可です。

Close Price Control の注意

A がすでに決済済みでも、EnableClosePriceControl=true で B 価格が許容範囲外なら B の決済を待ちます。その間 B ポジションは市場リスクを持ち続けます。安全決済（コピー予定の SL/TP 水準を B 価格がすでに通過したケース）は Close Price Control をバイパスします。

10. SL / TP 同期と v1.07 の安全動作

10.1 ProtectionPriceMode

- PROTECTION_DIRECT_PRICE: A の SL/TP 価格値を B にそのまま設定します。A/B で同じ銘柄・価格体系であることが前提になりやすい方式です。
- PROTECTION_RELATIVE_DISTANCE (初期値) : A Entry→SL/TP の距離を B の実際の Entry へ移します。異なるブローカー間で約定価格がずれても距離を維持しやすくなります。

SELL 例: A Entry 159.370, A SL 159.418 → 距離 +0.048

B Entry 159.366 → B SL $\approx$ 159.414

10.2 Stops Level で近すぎる場合

B ブローカーの Stops Level を満たさない SL/TP は、その時点では無理に設定しません。SL と TP を個別に判定し、有効な側だけ先に反映できる場合は反映し、無効な側は RetryIntervalMs に従って再試行します。新規発注時に保護価格が近すぎる場合も一時的に省略し、ポジション作成後の同期処理で再試行します。

10.3 予定 SL/TP 水準を B 価格がすでに通過している場合

v1.07 Safety

A の保護水準を B へ付けようとした時点で、B 価格がその SL または TP 水準をすでに通過している場合、B を無保護のまま残して価格が戻るのを待つのではなく、B ポジションを安全のため決済します。ReopenIfReceiverClosed=false なら、その同じ A ポジションに対する再エントリーも抑制されます。

10.4 SELL の SL は Ask 基準

SELL ポジションの SL 有効性/通過判定は B 側 Ask を基準にします。チャートのローソク足が Bid 中心で表示されている場合、見た目では離れていてもスプレッド分を含めると Stops Level 内になることがあります。BUY は主に Bid 側で判定します。

11. 起動時同期・再起動・B 側独立決済

11.1 SyncExistingOnStartup

この設定は「Receiver が初回スナップショットで見つけた、まだ Map を持たない既存 A 取引」の扱いを決めます。

- false: その既存 A 取引を ignored として登録し、A 側から消えるまで新規コピーしません。
- true: 初回同期対象として Map を作り、EnableSyncPriceControl / SyncAdverseDistances を使って同期を試みます。
- すでに B の Map に保存されている同期取引は、通常の B 再起動時に Map をロードして継続管理します。したがって「false だから再起動するたび既存取引を無視する」という意味ではありません。

11.2 ReopenIfReceiverClosed=false（推奨初期値）

B 側のマッピング済みポジションが、EA 自身の指示ではなく手動決済、B 側 SL/TP、ストップアウト、ブローカー処理などで減った場合、その減少量を「suppressed volume」として保持します。

- 部分的に B が減った場合: 失われた数量をすぐ戻さず、その不足量を維持します。A が後から数量を増減した場合は、原則としてその不足量を差し引いた目標に対して差分同期します。
- B が完全に 0 になった場合: その A ポジションは fully blocked となり、A 側の同じポジションが存在する間は B を新規に作り直しません。A 側取引が消え、Map が削除されるとブロックも終了します。
- true にすると、B を A 由来の絶対目標ロットへ戻す旧挙動になり、B 側独立決済後も再エントリーし得ます。

運用上の意味

B 側 SL が A より先にヒットして B だけ決済された場合でも、false なら同じ A 取引を勝手に再建しません。異なるブローカー間で保護水準や価格が異なる運用では特に重要です。

12. 待機注文 (Pending Orders)

CopyPendingOrders=true では、以下の待機注文タイプを A から B へ同期します。

- BUY LIMIT / SELL LIMIT
- BUY STOP / SELL STOP
- BUY STOP LIMIT / SELL STOP LIMIT

価格、Stop Limit 価格、SL/TP、注文の有効期限を管理します。有効期限は A サーバー時刻の「残り秒数」を B 側サーバー時刻へ換算して設定します。

B が A より先に約定した場合

ブローカー価格差により、A ではまだ待機注文なのに B だけ先に発動することがあります。v1.07 は A がまだ待機注文のままであることを検出すると、B 側で発動した早すぎるポジションを閉じ、必要に応じて B 待機注文を再構成します。

EnableClosePriceControl=true の場合は、価格条件によりこの決済が保留されることがあります。

A が待機注文からポジションへ移行した場合

A の Order が Position へ遷移すると、同じ Source ID の Map を Position として引き継ぎ、B 側の対応する待機注文/ポジションを整合させます。

待機注文変更時の注意

- B 側で注文価格が Stops Level を満たさない場合は変更を保留します。
- 既存 B 待機注文が Freeze Level 内にある場合、変更を保留します。
- B 待機注文の数量差はその場で数量だけ変更するのではなく、必要に応じて削除・再作成して整合させます。
- CopyPendingOrders=false へ切り替える場合、既存の本 EA マッピング済み待機注文は B 側で削除対象になります。運用中の切替はデモで確認してください。

13. Strategy Tester / Market Demo

同一 PC 内の 2 つのライブ MT5 ターミナルを Strategy Tester の 1 エージェント内で再現できないため、EnableStrategyTesterDemo=true のテストではコピー機能そのものではなく、製品が Tester 内で初期化・取引操作できることを示す単体デモを行います。

1. Strategy Tester 開始後、約 3 ティック待つ。
2. テスト対象シンボル（_Symbol）のブローカー最小ロットで BUY を 1 回開く。
3. TesterDemoHoldTicks で指定したティック数だけ保持する。
4. そのポジションを決済し、デモを終了する。

誤解しないでください

Strategy Tester Demo が成功しても、A-B の FILE_COMMON 二端末リンクをテスト内で検証したことにはなりません。実際のコピー機能は、同一 PC/VPS で 2 つの MT5 を起動しデモ口座同士で確認してください。

14. トラブルシューティング

症状	確認ポイント
B へ何もコピーされない	B の OperatingMode、EnableTrading=true、Algo Trading、ChannelName 一致、Source/DestinationSymbols の綴り、B が Hedging か、A/B の FILE_COMMON path が一致しているかを確認。Experts/Journal のエラーも確認。
A に既存ポジションがあるのに B へ来ない	初回導入で SyncExistingOnStartup=false なら仕様。A の既存取引は消えるまで無視される。既存取引も同期したい場合は新しいテスト環境で true を使用。
SL/TP だけ反映されない	B の Stops Level、現在 Bid/Ask、スプレッドを確認。近すぎる保護価格は再試行される。予定保護水準をすでに通過している場合は B が安全決済される。
B を手動決済したら再オープンしない	ReopenIfReceiverClosed=false の仕様。再オープンを望む場合のみ true。ただし運用特性が大きく変わる。
A と B で SL/TP 価格が違う	ProtectionPriceMode=PROTECTION_RELATIVE_DISTANCE なら正常。Entry からの距離を B 側へ移している。
ロットが想定と違う	LotMultiplier、Balance Ratio、AccountUnitDivisor、Currency Conversion、Contract Size correction、B の min/step、TargetVolumeRounding、上限設定を順に確認。
A/B 通貨が違うと Balance Ratio で動かない	EnableBalanceCurrencyConversion を有効にし、ConversionSymbol/Operation または Manual rate を正しく設定。
価格差が不利な間ずっと発注されない	EnableEntryPriceControl または EnableSyncPriceControl が ON なら仕様。許容範囲へ戻るまで RetryIntervalMs に従って再試行する。
A を別口座に切り替えたら同期停止	同じ ChannelName は最初の A login へ Binding される。新しい A には新しい ChannelName を使用する。
同じ ChannelName で動作が不安定	同じ ChannelName に Publisher を複数起動していないか、同じ B 口座+ChannelName の Receiver を重複起動していないか確認。
内部 CSV を見つけた	Common Files に LocalTradeCopier_... という内部互換用ファイル名が作られる。通常は編集・削除しない。オープン中の同期取引がある状態で削除すると Map を失う可能性がある。

15. 運用前チェックリスト

- ☐ A と B は同じ PC/VPS 上の別 MT5 ターミナルで動作している
- ☐ A/B の Experts ログに表示される FILE_COMMON path が一致している
- ☐ B 口座は Hedging 方式
- ☐ A=Publisher、B=Receiver
- ☐ ChannelName が A/B で一致
- ☐ SourceSymbols の並びが A/B で一致し、B の DestinationSymbols が正しい
- ☐ B の EnableTrading=true、Algo Trading 有効
- ☐ 初回既存ポジションをコピーするか SyncExistingOnStartup を意図どおり設定
- ☐ ReopenIfReceiverClosed=false/true の挙動を理解して選択
- ☐ Lot sizing と Contract Size correction をデモで確認
- ☐ SL/TP を追加・変更・削除して B の挙動を確認
- ☐ 部分決済・全決済を確認
- ☐ Pending Orders を使う場合は Limit/Stop と取消/発動を確認
- ☐ 価格差制御を ON にする場合は距離値が価格単位であることを確認
- ☐ Experts/Journal に継続的なエラーがない

16. 本マニュアルの仕様確認

- 対象ソース: LocalTradeSyncCopier.mq5 / #property version "1.07"。
- input パラメータ: 50 項目をソースコードから機械抽出し、本書の表と名称・順番・初期値を再照合。
- Enum 選択肢: OperatingMode / LotSizingMode / ConversionOperation / BelowMinimumLotAction / SmallRemainderAction / ProtectionPriceMode / TargetVolumeRounding をソース定義と照合。
- 主要用途確認: FILE_COMMON、同一 PC/VPS・共通 Files パス、B の Hedging 必須、A login binding、B map の口座別分離、ReopenIfReceiverClosed の抑制、Stops Level/Freeze Level、Strategy Tester Demo の実装を v1.07 コードで再確認。
- 画面例: v1.07 Publisher/Receiver 設定、USDJPY コピー、SL/TP 同期の実機スクリーンショットを使用。

バージョンについて

本書は v1.07 専用です。将来 v1.08 以降で input や挙動を変更した場合は、PDF も同時に更新してください。製品の動作仕様とマニュアルが食い違う状態を避けることが重要です。

17. 免責・利用上の注意

本製品は取引状態を同期するためのユーティリティであり、利益、約定価格、スプレッド、遅延、ブローカー間の同一結果を保証するものではありません。実際の発注可否や SL/TP/待機注文の制限は、B 側ブローカーの取引仕様、流動性、市場状況、口座条件に依存します。実資金での利用前に、使用するブローカー・口座・シンボル・ロット設定で十分なデモ検証を行ってください。

Local Trade Sync Copier v1.07 - User Manual JA 1.1